

解放百年を迎えて感慨もひとしお、昔を懐しむ機会です。私が記念館の近くに住み 23 年、結婚する迄いました。

吉川銀之丞氏奥さんの姿は今も思い出します。子供心にいつも竹ボウキで庭をはいていた姿、電話のない時代事務所には昔ながらの電話、珍しく見入ったものです。

私が中学一年の頃事務所が火事になり、朝礼の時、煙が家の方から出ていて驚いたこと、急いで家に帰ったら事務所が火事で、一階は焼けて、二階の部屋が残っている状態で書物が沢山外に出されていました。

今思えば、有島部落の人達が焼けないように出したとのことでした。

其の後、有島記念館が出来、二階が書物、下は集会所として使用していました。

文学青年、有島文学を慕う人達が良く訪れ父は、田んぼにいても、畑仕事をしていても記念館を開けて説明をしていた姿、思い出されます。こうして有島の人達が守っていました。父が留守の時は、私達姉妹が鍵を開けて案内しました。

中学生の頃、教科書に生れいづる悩みが載った時には誇らしさと嬉しさでいっぱいでした。

ある日我家の状差しを見ていたら小作人だったひいお爺さんに有島武郎さんからの、年賀状を手にして、現在も私が大切に保管しています。

父母が、上京した折には、六本木にある武郎長男森雅之さんの家を訪れ、奥さんが在命の時、有島の様子など、話していたと思います。何度か私が案内しました。マンションには、森雅之さんの写真と愛用の香水が飾っていました。

祖父、父と謝恩会の会長を務め、再建の時には、一生懸命札幌の大学の先生と親交を深め、予算が降りたと大喜びしていた姿を思い浮べます。

こうして守る人達に守られ百年を迎えられたことに心より祝意を感じます。